

令和4年度第1回ライフサポートファイル作ろう会 講座アンケート

日時：令和4年7月11日(月) 10時～12時

出席者：18名

アンケート回収：18名(回収率100%)

講師：土屋徹氏(フリーランス ソーシャルワーカー)

1 講座内容

講座では、ほめられる行動をたくさん探していきましょうとの話だった。具体的には「見える」「聞こえる」「数えられる」ことを「行動」として、ほめられる行動を探していくことが大切であり、「今できていること」「長く続けてほしいこと」をほめたいことにあげていきましょうとのことだった。参加者からは「朝起きておはようと言ってくれること」、「食器をさげてきてくれたこと」などがほめたい行動として出され、講師からは日常生活で当たり前と思っていたことも「長く続けてほしいこと」と注目していくことが大切との話があった。

また、本人の「好きなほめられ方」についても触れ、ことばでほめられたい子、視線を送ったり笑顔を見せたりすると喜ぶ子、ハンドサインを喜ぶ子、など、お子さんによってもそれぞれであるため、お子さんが喜ぶほめ方を探していきましょうとの話だった。

ライフサポートファイルについては、活用に向けたきっかけづくりを意図して頂いた。前年度土屋講師の助言により作成された「ほめほめシート」を講座内で使用し、お子様のポジティブな情報を作成する事で、保護者がファイルに綴ってみようとする気持ちを後押しして頂いた。また、子どもの状況を「卵」に例え、生卵を割ると黄身の部分(その子自身の能力や特徴など)が目立つが、ゆで卵は白身(身に付けたこと)が目立つ、その子の白身を温めていくのが保護者や支援者との話があった。

2 アンケート結果(抜粋)

(1) 参加動機(複数回答)

テーマに関心があった(11件)、講座を紹介されたため(12件)、ライフサポートファイルを充実させたい(1件)、ソーシャルスキルトレーニングについて学びたい(1件)

(2) 講座の活用度

大いに活用できる(14件)、部分的に活用できる(4件)

① 理由

- ・先生がお話しされていたように、子どもの気になる行動に目が行きがちになっているので、こどもにとっても大人にとっても良い部分を見つけていくことが気持ちよく生活するうえで大切だと思った。怒ってばかりいるのではなく、子どもと向き合う中でよいところをたくさん見つけていきたい。
- ・自分の子どもにあった伝え方を知ることで子どもが指示が入りやすくなったり行動しやすくなったりするということがとても勉強になりました。具体的に褒めることも実践したいと思います。 等

(3) 講座に関する感想・意見

- ・子供が成長するにつれて親の悩みも変わっていきませんが、その度に講座に来て話を聞くと、今の悩みに当てはめて考えられます。たびたび講座に来られると大変子育ての助けになります。
- ・子ども目線で常に接していきたいと思います。
- ・自分の「ほめる」「ほめ方」のバリエーションが少ないことに気づかされました。 等

(4) ライフサポートファイルについて

① 認知度

知っていた(16件)、知らなかった(2件)

② 活用度

大いに活用している(2件)、部分的に活用している(12件)、あまり活用していない(4件)

③ 活用度の理由

- ・個別指導で受けた指導内容を保育園と共有。そのままコピーや原本を渡せてとてもスムーズです。
- ・ひまわりや発達検査、事業所の支援計画をまとめている。
- ・描いた絵や作品を入れておき、成長を感じることができる。
- ・後からきっと残しておいてよかったと思える時が来ると思うので頑張って作成しようと思います。 等

④ 内容(複数回答)

乳幼児個別支援計画の写し(10名)、福祉サービス事業所のアセスメント票や利用計画、個別支援計画など(7名)、病院や相談機関の書類など(6名)、個別の教育支援計画の写し(3名)、写真やお子様の描いた絵など(3名)、受給者証や療育手帳(2名)

⑤ 書いた人や作成を手伝ってもらった人(複数回答)

配偶者・パートナー(6名)、子どもの所属機関の先生(3名)、病院や相談機関の支援(2名)、子ども本人(2名)

⑥ 今後必要だと思う取り組み

- ・自由度が高すぎてどうすればよいのかわからなくなるので、(ただ綴っていくだけになってしまうので)他の人がどう活用しているのかという具体的な見本があると嬉しいです。 等

令和4年度第2回ライフサポートファイル作ろう会 講座アンケート

日時：令和5年1月16日(月) 10時～12時

出席者：17名(保護者14名、児童発達支援事業所職員3名)

アンケート回収：17名(回収率100%)

講師：土屋徹氏(フリーランス ソーシャルワーカー)

1 講座内容

講座では、ほめて好ましい行動を強化することが良い習慣を身に付けるために有効とのお話があった。その子自身の強みを見つけ、強化していくためには、まずは保護者自身の強みを見つけていくことが必要とのことだった。実際に参加者は2～3人組で自分の良いところを自己紹介し合ったり、「持っている夢や希望」「自慢できること」「持っている資格や特技」「周りで生かせる人や物」「今の人生やこれからの人生を歩んでいく時に活かせる過去の経験」の5つについて話し合ったりした。子どもの事について話し合った内容は、本市のライフサポートファイル様式「ほめほめシート」に記載しファイルに綴っていく事という話があり、子どもの姿は変化していく事にも触れられ、「ほめほめシート」はどんどん更新し、ファイルの中身を積み重ねていく意義について講演頂いた。また、他市における講師の実体験からも、ライフサポートファイルの活用啓発を頂いた。

また、子どもの状況を「卵」に例え、生卵を割ると黄身の部分(その子自身の能力や特徴など)が目立つが、ゆで卵は白身(身に付けたこと)が目立つ、その子の白身を温めていくのが保護者や支援者との話があった。

2 アンケート結果(抜粋)

(1) 参加動機(複数回答)

テーマに関心があった(14件)、講座を紹介されたため(7件)、ライフサポートファイルを充実させたい(5件)、ソーシャルスキルトレーニングについて学びたい(4件)

(2) 講座の活用度

大いに活用できる(16件)、部分的に活用できる(1件)

① 理由

- ・ほめることで好ましい行動を定着させるという点が学びでした。その子に合ったほめ方をするという点も気を付けて、育児に活かしていきたいと思いました。
- ・こどものことはほめてもなかなか自分のことをほめるということをやっていなかったもので、自分の強みについて考え、今後自分の子育てや相手の良いところを見つけることに活かしていけたらよいなと思いました。
- ・ほめた後の子どもの様子を見る、が、やってなかったなと思いました。 等

(3) 講座に関する感想・意見

- ・子どもをほめるには、自分の良いところを理解するというのがとても納得し、難しかった。
- ・身近にある宝物(子どもの好ましい行動)、当たり前のように存在している宝物がたくさんあることに気づかせていただきました。気づかないままではもったいないですね。
- ・当たり前のことは見過ごしがちでしたが、今しっかりできていることを認め、当たり前と言わず小さなことを一つ一つほめやる気、自信につなげていけたらよいなと思いました。
- ・自分自身についてきちんと知らなければならぬと痛感させられた。 等

(4) ライフサポートファイルについて

① 認知度

知っていた(12件)、名前を聞いたことはあった(2件)、知らなかった(2件)、未回答(1件)

② 活用度

大いに活用している(2件)、部分的に活用している(6件)、あまり活用していない(7件)、未回答(2件)

③ 活用度の理由

- ・自由に使える分、逆にどう使っていいのかわからない。
- ・これ 1冊にまとめることで、わかりやすく重宝しています。先生にみてもらうときも伝えやすいです。
- ・自分がいろいろなことに気づいてあげられないから活用できていない。小さい子とでもほめたりできるように自分の意識改革が必要だと思う。
- ・療育の記録用に活用しています。今年の 4 月から小学生なので、引継ぎに役立てようと思っています。 等

④ 内容(複数回答)

乳幼児個別支援計画の写し(7件)、福祉サービス事業所のアセスメント票や利用計画、個別支援計画など(7件)、受給者証や療育手帳(3件)、写真や子どもが描いた絵など(2件)、個別の教育支援計画の写し(2件)、病院や相談機関の書類など(2件)

⑤ 支援者等と共有したか

9件：はい

→誰と共有したか(複数回答)

配偶者・パートナー(4件)、子どもの所属機関の職員(4件)、福祉サービス事業所の支援者(2件)、病院や相談機関の支援者(1件)、障がい福祉課の担当者(1件)

4件：いいえ

→理由(複数回答)

見せる機会がない(2件)、どう伝えていいのかわからない(2件)、見せたい相手がいらない(1件)、子どものプライバシー(1件)

4件：未回答

⑥ 今後必要だと思う取り組み

- ・学校やこども園側からも、共有を求める姿勢があればもっと活用できると思う。共有するタイミングがわからない。
- ・気軽に伝えられる関係性が必要だと思います。 等

3 参加事業所の感想

子どもに物事などをお伝えする際には、” 耳からの情報”、” 文字の情報”、” 動きや絵の情報” など、ご本人の特徴に応じた伝え方が必要なことを再確認できた。 等